



# 千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

96.8.1 No.4441

## 夏季輸送闘争、3週間目

# 猛暑を吹きとばして闘争貫徹へ

## 国労千葉運輸区分会と「休日出勤拒否」を決議

千葉運輸区を対象とした夏季輸送闘争に入ってから二週間が経過した。この夏季輸送闘争に突入した支部組合員の毅然とした闘いが、これまでの千葉運輸区分会との対応を一変させている。

これまで千葉運輸区では、臨時行路や突発休の発生、年休などにより交替が回らなくなると、見境なしに休日勤務や公休呼び出しを行い、そのたびに「この扱いはおかしいのではないか」という職場での声が相次ぎ、問題が発生していた。しかし、今回夏季輸送闘争に入ってから以降、当局が必要以上に言葉かけをなぐり、逆に業務が整然と行なわれるようになったというのである。

これまで当局は、争議行為という業務はそつちのけでスト対策＝労務対策を優先させてきた。しかし、今回のように争議に入ったがために、へたに言葉をかけて休日勤務のことなどに触れるとストへの介入になることから喋らなくなり、このことが結果的に業務を整然と行なわせているのだ。全く皮肉な話である。

国労の仲間も休日勤務拒否

この夏季輸送闘争は、千葉運輸区の職場内でも大きな反響を呼んでいる。

国労千葉運輸区分会は、今回の勤務千葉による夏季輸送闘争にともない職場集会を開催し、休日勤務には応じないことを分会で決議し、当局も国労の仲間たちには休日勤務の呼び出しを一切行なっていないという。

こうした闘いが、前段での当局の対応となつて顕れているのだ。国労の仲間とともに夏季輸送闘争を貫徹し、助勤操配も行なわない当局への抗議の声をさらに高めよう。

休日勤務で九日間業務  
運輸保安上も大問題

一方、夏季輸送闘争に入ってから、年休の問題、猛暑のために体調を崩して休む者やその他の欠勤が発生し、他労組組合員が休日勤務で呼び出されるなど問題も多く発生している。休日勤務が行なわれた数は今回は明らかにしないが、特徴的な例をいくつか上げておくことにする。

八月の土曜日に年休をとるために特認を申請したところ、そ

の特認が認められないという事態が発生している。これでは、何のために特認制度を設けているのかわからない。臨時行路が多数発生し、その要員操配を行なわないために発生した典型的な問題点だ。

「特休＝公休」のところを休日勤務の呼び出しを受けて勤務についたために、九日間も乗務を続けたという事実が明らかになっている。これでは、心身ともに疲れはて、事故にもつながりかねない重大な問題だ。

夏季輸送期間に入ってから連続した猛暑の中、運転士にとって決められた休日の中でしっかり体を休めることが運輸保安の面からも重要なことであることは誰も否定できないことだ。それさえ全く考えず、運転士の頭数さえ揃えればそれでいいという当局の姿勢こそ糾弾されなければならない。

習志野運輸区から  
運転士二名を転勤

また、今日(八月一日)付で習志野運輸区から千葉運輸区に二名の運転士の転勤が発令になった。

この転勤について千葉支社は「適正な要員の配置である」としている。今頃になって適正な配置だと。ふざけるな。夏季輸送前から千葉運輸区に対して要員がたりないから、助勤操配を

行なえと何度も申し入れたにもかかわらず、「業務に必要な要員は確保しているところである」と回答し、助勤操配を拒否してきたのは誰だ。

しかし、こうした二名の転勤は、夏季輸送闘争により当局自ら千葉運輸区で運転士の要員が足りないことを認めたということだ。

率先協力のJR総連を  
解体・一掃しよう

他方、当局が助勤操配を行なわないという中で、休日出勤に積極的に応じているJR総連を許しておくことはできない。休日出勤を行なうことで要員不足が「解消」され、要員が「足りている」からさらに勤務がきつくなる、要員が減らされるといふ悪循環になるのだ。自分自分の首を、いや他の労働者の首をも絞める結果になっているのだ。

夏季輸送闘争を貫徹し、職場への適正な要員配置をかちとろう。JR総連を解体・一掃し、正念場を迎えた国鉄闘争に勝利しよう！

